

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

不思議さを感じている子どものつぶやきから学ぶ／社会福祉法人西大村福祉会 いけだ保育園

不思議さを感じる子どもの姿を、保育の中で見取ることはできますか？不思議さを感じている子どもが、探求したり新たな発見をしたりする姿をどのように援助していますか？

この事例は、川や海での体験から、たくさんの不思議さを感じている子どもたちと、子どものつぶやきから保育を振り返った保育者の豊かな学びが伝わってきます。「科学する心」に結び付く保育の手がかりが見えてきます。



○ 自然から不思議を感じる（言葉に注目）／3,4,5歳児

✦ 川での不思議「どうして、川の水は冷たいの？」

Sちゃん：「冷たいっ」

保育者：「本当だね。冷たいね」

Sちゃん：「どうして川の水はこんなに冷たいの？」

保育者：「保育園の水と違う？」

Sちゃん：「保育園の水は、こんなに冷たくないよ！」

保育者：「ああ、そういえばそうだね」

Kちゃん：「ここ(川)は、いっぱい木に囲まれてて、太陽が当たらないから冷たいんだよ！」

Sちゃん：「あー、プールの水は太陽がずっと当たっているもんね」

Hちゃん、Sちゃんたちは小さなスコップとバケツ、園庭の川でアメンボ捕りも経験し

ているNちゃんとRちゃんは自分で考えた道具、Nちゃんはままごとのおたま、Rちゃんは網を持っている。



分析

川に入った瞬間に感じた、水の冷たさ。

↓

「保育園と同じ水なのに、どうして、川の水は冷たいのかな？」

↓

水温の違いに気付く

子どもたちは、「見て見て！水がいっぱい流れているよ！」と水の流れに気付いた。小枝や葉っぱを流したり、自分たちで作った船や水車を使って流れで遊んだりした。「これは流れるかな？」といろいろな物を試し、「これは、流れてどこに行くのかな？」と疑問に思った。「水はどこから流れて来ているのかな？」という疑問をもったことをきっかけに、源流探しの探検をした。どんどん上流に行くに連れて大きな石が子どもたちの目の前に立ちちはだかる。森は深くなり、周りの木々の変化を感じながら、子どもたちは黙々と進んでいった。水が上から落ちてくる様子や深い所があるなど、いろいろな発見をした。

✦ 海での不思議「どうして、水が行ったり来たりするんだろう？」

川遊びを楽しんで約10日後、海に行った。「うわー、海は広いね」「そういえば、大きい石がないよ！川にはいっぱいあったのに」「海には貝殻もあるよ」など、海を見て話す姿があった。そして、いよいよ海に入った。

子どもたちは「うわ！また（波が）戻ってきた！」と、引いては戻ることを繰り返す波の動きに身を任せながら楽しんでいった。

Yちゃん:「水が行ったり来たりしている」

保育者 :「これは波って言うんだよ」

Yちゃん:「へえ。川にはなかったね」

「どうして、水が行ったり来たりするんだろう？」

Sちゃん:「(海の水は)しょっぱい!川の水は冷たくて味がしなかったよ。何で川の水が流れてきているのに、しょっぱいのかな？」

Aちゃん:「海には塩がいっぱい入っているからじゃない？」

Sちゃん:「何で海だけ塩がいっぱい入ってるの？」

Aちゃん:「…」

Rちゃん:「塩の塊が沈んでるんじゃない？」



分析

大きな石がないことに気付くなど、川と海の違いを感じている。川遊びでの印象が強かったようだ。

↓

海に入り、波や塩水を体験することで、波や海の水の味に不思議や疑問を感じている。

塩やしょっぱい味に興味をもったので、海水を煮詰め塩作りをした。3、4歳児にも見せてあげるために、保育園に海水を持って帰った。更に、地域の科学館で、海水の塩、精製した塩、ごま塩、上質の塩などを観察しスケッチをした。

✦ 体の不思議「体の中にも、塩が入っているの？」

体をたくさん動かし、大粒の汗をかいたTくんが保育者に、「体の中にも、塩が入っているの？」と話した。汗をなめたらしょっぱかったので、保育者にもなめてみることを勧め、「みんなの体の中にも、塩が入っているのかな」とつぶやいた。そこで、保育者が「Tちゃん、大発見だね!すごい!」と言ったことから、集まってきた子どもたちは、汗をなめてみた。「僕の汗は何も味がしないよ」「しょっぱい人と、しょっぱくない人がいるんだよ」「私の汗はしょっぱいよ。そういえば、きのう、塩飴なめた」「だからじゃない」「僕は、塩飴食べてないよ」「Tくん、給食の時ご飯にごま塩いっぱいかけるからじゃない?」「そうかもしれない」など、話し合った。

分析

自分の汗の味がしょっぱいことを感じ、体の中に塩が入っているのかと、疑問をもつ。

↓

友達の疑問をきっかけに、子どもたちは体の中に塩が入っているのか不思議に思う。「どうして汗がしょっぱいのか?」考え、話し合い、共感した。

✦ 考察

自ら不思議さを感じて「体の中にも、塩が入っているの?」という子どものつぶやきを聞いて、ハッとして保育を振り返った。「保育者の“学んで欲しい”という気持ちで押し付けていなかったか?今まで、子どもたちは新しい発見をすることができていたのか?」と考えることができ、子どものつぶやきから保育者として学ぶことができた。これからも、子どもたちの新しい発見・つぶやきにもっと耳を傾け、「不思議を“ふしぎ”と思う心」を育てていきたい。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」